

1 ねらい

対話したり協働したりして情報を交流し、自分の考えを広げることができる。

2 手立て

遊びに誘いたい理由を青の画用紙に、その意見に対しての反対意見を赤の画用紙に書いて、黒板に貼っていく。画用紙を動かしながら考えの整理をしていき、考えの変容を視覚化する。



【考えの変容の視覚化】

3 実践の様子

はじめに、「はじめて学区にきた友達を、遊びに誘うなら中央公園か、児童館かどっちがいいか」について自分の考えをもたせた。

まず、中央公園を選んだ児童に理由を尋ねた。児童からは、「遊具が色々あって楽しい」、「グラウンドが広くて楽しい」などの考えが出た。次に、児童館を選んだ児童に理由を尋ねた。児童からは「雨でも晴れでも遊べる」「卓球ができる」などの考えが出た。

次に、情報の交流をするために、「中央公園には遊具があって色々楽しいと言っているけど、他の友達が使っていたら遊べない。」といった反対の考えを発表させた。

中央公園に対して「グラウンドが広くて楽しいと言っているが、サッカーや野球などのクラブチームが使っているので、遊ぶスペースはせまい」などたくさんの反対の考えが出た。児童館に対しては、「卓球で遊べると言っているが、だれかが使っていたら予約がある」などの反対の考えが出た。

ただ、どちらの反対の考えに対しても「サッカーや野球などのクラブチームが使っているので、遊ぶスペースはせまいと言っているが、遊具の下にもスペースはある」など反対の考えに対して、さらに考えを発表する児童もおり、情報の交流を広げることができた。

一通り情報を交流した後、児童に友達の発表でいいなと思ったことや、なるほどと思ったことがあればワークシートに記入するように指示した。

そして最後に、「みんなの考えを聞いて、もう一度どちらに遊びに行くか考えよう」と児童に発問したところ、児童は友達の考えをふまえながら自分の考えを再考することができた。

4 成果と課題

- 児童の生活経験に沿った発問だったので、児童はたくさんの考えを出すことができ、情報の交流が活発になった。
- 黒板に様々な考えを出すことで、児童は自分の納得できる友達の考えを選択することができ、自分の考えを広げることができた。
- 学級全体で指導したので、発言をしなかった児童の中には、交流に参加できていない児童もいた。